

安全工学の守備範囲



公益財団法人総合安全工学研究所 理事長

新井 充
Mitsuru Arai

2025年6月に公益財団法人総合安全工学研究所の理事長を拝命致しました。遅ればせながら、自己紹介を兼ねた就任のご挨拶をさせていただきます。

私は、1982年3月に工学博士の学位を取得、4月から新日本製鐵(株)に就職し9年間務めた後、1991年4月に東京大学講師、その後、助教授、教授を経て2020年3月に退職し、同年から総安研にお世話になっております。専門分野は安全工学ですが、正確には、物質の発火・爆発リスク評価を核とした化学安全工学になります。

産業災害の中でも発火・爆発を含む事故は注目度が高くなりますが、私として特に記憶に残っているのが、2011年東日本大震災での福島原発の爆発事故、同年と翌年に起きた3件の重大化学プラント事故です。福島原発爆発事故では、原子力発電に対する安全神話の崩壊が、「想定外」という逃げ口上とともに強く印象に残りました。また、3件の化学プラント事故では、その全てが起こるべくして起きたものであることを後日知り、非常に残念な気持ちになりました。更に、数年後にAIChE（アメリカ化学工学会）傘下のCCPS（Center for Chemical Process Safety）によ

るプロセス安全管理の考え方を勉強した際に、それが事故に至る機序を明確化できることを知り、その重要性を認識するに至りました。

ところが、2020年からのコロナ禍には、全世界の感染死亡者数が100万人を超えるという、これまでの産業災害とは桁違いの破壊力を見せつけられました。加えて現在に至り、ワクチンの効果やCOVID-19の脅威が未だに客観的に評価できていないという状況に無力感さえ覚えています。

更に、2022年にはロシアによるウクライナ侵攻が、2023年にはイスラエルによるガザ侵攻が始まりました。ともに、先進諸国を巻き込んだ戦争に発展する兆しを見せ、人類としては最も恥ずべき状況になってきております。

改めて「安全工学」を考える時、産業安全のみを対象とする時代ではなくなっているのではないかと考えさせられております。

今回の理事長職は、田村先生の後任ということで、甚だ荷の重い役回りではございますが、できるだけ早くキャッチアップし、自分の色を出せるよう精進してまいり所存でございます。どうぞよろしくお願い致します。

公益財団法人総合安全工学研究所 理事・監事

理事長 新井 充 東京大学名誉教授
専務理事 中村 順 (公財)総合安全工学研究所
常務理事 福富 洋志 大阪大学特任教授
常務理事 三宅 淳巳 横浜国立大学上席特別教授
理事 小川 輝繁 横浜国立大学名誉教授
理事 谷 質生 日油技研工業(株)川越工場長

理事 田村 昌三 東京大学名誉教授
理事 安原 洋 東京大学名誉教授
理事 若倉 正英 (特非)保安力向上センター常務理事
監事 河野 晴行 (公社)日本煙火協会専務理事
監事 田中 保正 元(一社)日本芳香族工業会専務理事